

## 開会挨拶：研究所プロジェクトの概要、SDGs・ポストコロナのJNTOの取り組み方針等



柳谷 啓子 YANAGIYA, Keiko

中部大学人文学部コミュニケーション学科教授

中部大学国際人間学研究所長、人文学部長

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。文学修士。専門分野は、社会言語学、英語学、談話分析。研究テーマは、メディアと表現の関係、デジタルアーカイブなど。主な訳書・著書に『読みのプロトコル』『スクールの文学講義：テキストの構造分析にむけて』『エーコの読みと深読み』（以上岩波書店）『<はかる>科学：計・測・量・謀：はかるをめぐる12話』（中央公論新社）。

これから、国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2021 年度」を始めさせていただきます。私は、当研究所所長の柳谷啓子と申します。どうかよろしくお願い申し上げます。本日は、年度末のお忙しいところ、当シンポジウムにご参加くださいます。ありがとうございます。まず、当研究所のミッションステートメント、現在進行中の研究所のプロジェクト群、そして、SDGs への貢献とポストコロナ時代の持続可能な観光の推進に向けての JNTO 取組方針などについて少しお話しさせていただきたいと思っております。

国際人間学研究所は、2004 年にできた新しい研究所で、国際関係学部と人文学部の上にまたがって設立されております国際人間学研究科の所属教員を主な所員としております。地域活性化（localization）を基盤とした国際共生社会（globalization）の実現を目指すことをミッションとしておりまして、文理融合の研究プロジェクトを推進し、それを通して国際人間学研究科を活性化させ、ひいては中部大学の存在意義を高めようということによってまいりました。

私が所長となりました 2019 年度より、当面 3 年計画で、歴史、文化、政治、経済、情報、生態系などの文理融合の視座からの研究を進めるにあたって、ローカルなフィールドとして、春日井市、高山市、恵那市を中心とした東濃地域を含む従来の研究対象であった伊勢・三河湾流域圏と高山市などの隣接地域、および、ちょっと飛び地をしましてご縁のある稚内市を対象としました。また、グローバルなフィールドとしては、本学の学術交流協定校のマレーシア科学大学があるマレーシア、本研究科の学術交流協定校である内モンゴル大学がある内モンゴル自治区、春日井市の姉妹都市であるカナダのケローナという 3 地域を対象としました。

これらをあわせて、SDGs 達成に寄与すべく、「持続可能な観光」を共通の切り口としつつ、当初、7つのプロジェクトを立てて研究を開始いたしました。詳細は後ほど各プロジェクトのリーダーのみなさんから活動報告がありますので、そちらに譲ることにいたします。

2019 年より 3 年計画で開始した「持続可能な観光」プロジェクトでしたが、2019 年度末より蔓延し始めた新型コロナウイルスによる感染症拡大により、海外をフィールドとする研究は文献研究に切り替えざるを得なくなり、また国内におきましても、県境を跨ぐ行き来がしにくくなり、例えば東濃の地芝居調査保存プロジェクトなどは、ご高齢者の多い保存会のみなさんとの交流を遠慮したり、定期公演が軒並み中止になったりして、活動がすっかり滞ってしまいました。

そこで、本来ならば 2021 年度末、つまり今年度末を以て終了するはずだった「持続可能な観光」プロジェクトをもう 1 年延長して、何とかもう少し成果を形にできるようにしたいと考えて、2022 年度をプロジェクトの最終年度とすることにいたしました。2020 年度からは、「Sustainable

heritage tourism in Malaysia 研究プロジェクト」と「モンゴルにおける草原観光の季節的変動研究プロジェクト」を合体させて、オルタナティブツーリズム・プロジェクトといたしました。また、春日井市の商工会議所と連携して実施していた「まちゼミ」活動を中心とする地域活性化プロジェクトは、プロジェクト・リーダーの退職に伴って終了いたしました。したがって、現在は、5つのプロジェクトが走っております。

さて、観光政策では多少出遅れた感のありました日本ですが、昨年6月によりやく日本政府観光局（JNTO : Japan National Tourism Organization）が「SDGs への貢献と持続可能な観光＝サステナブル・ツーリズム＝推進に向けての取組方針」を策定して発表しました。2021年6月に配布されたプレスリリース（日本政府観光局 2021）によれば、推進する取り組みは、サステナブル・ツーリズムに取り組む日本の地域や観光コンテンツ（アクティビティや観光・飲食・宿泊施設等）の海外向け情報発信、国内関係者への国内外の先進事例の情報提供、海外の旅行者に対する「責任ある旅行者としての行動の奨励、人種や国籍、民族や宗教、ジェンダーや年齢、障害の有無等に関係なく全ての旅行者が日本において快適で安全・安心な旅行ができるようなユニバーサル・ツーリズムに資する情報発信などということです。

特徴としては、SDGs とポストコロナの状況を強く意識していることが挙げられると思います。

まず、中心となる SDGs のほうですが、JNTO による持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の定義は、まず、その観光が地域の「環境」を守り育むものであること、すなわち、環境負荷に配慮した観光コンテンツなど環境資源を最適な形で観光に活用している事例を情報発信し、自然や生物多様性の保全等に貢献すること。また、その観光が地域の「文化」を守り育むものであること、つまり、日本が古来育んできた地域の有形無形の伝統・文化資産等を魅力ある形で海外に発信し、外国人旅行者による体験等を通じて、その保存・継承に貢献すること。さらに、地域の「経済」を守り育むものであること、すなわち、特定の地域や時期に偏ることなく日本全国各地への外国人旅行者の安定した誘客・滞在を目指すとともに、地域ならではの体験や特産品などの購入を促進することで、地域経済の活性化と安定的かつ長期的な雇用を創出し、住んでよし・訪れて良しの地域づくりに貢献することとしています（日本政府観光局 2021）。

具体的な SDGs との関連で言いますと、「目標 8 : 働きがいも経済成長も」、それから、「目標 12 : つくる責任つかう責任」、さらに「目標 14 : 海の豊かさを守ろう」の 3 つのゴールにおいて「観光」の役割が明記されたターゲットが設定されています。しかし、JNTO の指摘を待つまでもなく、観光はすべてのゴールに対して直接的あるいは間接的に貢献する力があり、重要な役割を担っていることは明らかです。

より明確にイメージできるように、JNTO は、例えば環境保全に配慮した取組について、さらに具体的な推奨例を挙げています：プラスチック使用の削減（ペットボトル等の使用削減・タンブラー等への代替、紙製／生分解性プラスチックのストローへの代替、マイバッグの持参促進）、紙の宣伝印刷物等の削減（デジタル・パンフレットやデジタル・アンケートへの代替）、環境に配慮したギブアウェイ（販売促進を狙った無料の配布物やグッズ）の作成（FSC 認証＝「適切な森林管理」認証＝の紙等の再生紙の使用、繰り返し使用できるギブアウェイの作成）、再利用可能な備品等の積極的な利用（デジタルサイネージや LED 照明器具の使用、ウォーターサーバーの活用）、イベントにおけるフードロスの削減、などです。

今回の JNTO の取組方針のもう一つの特徴がポストコロナを見据えた持続可能性です。前回、当研究所の「持続可能な観光 2019 年度」シンポジウムが滑り込みセーフで開催された 2020 年初

頭ごろから、瞬く間に新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延して人の移動が制限されたことで、観光業界は大きな打撃を受けました。

一方、私たち旅行者のほうも、コロナ禍を経て旅行に対する意識が変化しつつあるように思います。例えば、宿を選ぶにしても、どのような感染症対策が行われているのかを調べたり、宿が出す情報は真実かを口コミでチェックしたり、食事が個室か否か、万一感染した場合に、受け入れてくれる医療機関と連携体制が組まれているかなどを調べるようになりました。また、感染のリスクが低いアウトドアの活動、例えばハイキングやキャンプなどがブームとなっています。

こうした変化に伴い、交通機関や宿泊・観光施設等の旅行関係業界の業界団体が構成される「旅行連絡会」は、国土交通省・観光庁の協力を得て、従来の日本の文化・習慣などに関する情報発信活動に加え、日本を旅行する際に新型コロナウイルス感染拡大防止のために旅行者に求められる行動をまとめた「新しい旅のエチケット」(図1～図6)を多言語で海外に向けて発信し、外国人旅行者が責任ある旅行者として行動することを奨励しています。その具体的な行動の例には、例えば、ソーシャル・デイズタンス確保の実施と混雑の回避、訪問地の文化や慣習、マナー等(例えばマスクの着用)の尊重などが挙げられています。みなさんも以下のポスター(旅行連絡会 2021)をごらんになったことがあるかもしれません。

かくして、本日のシンポジウム「持続可能な観光 2021 年度」のサブタイトルは、コロナ禍下における観光、およびポストコロナの持続可能な観光、ということになりました。本日は、学術交流協定校であるマレーシア科学大学と内モンゴル大学から、そして連携協定を結んでいる高山市と恵那市、さらに、本学人文学部教員2名のフィールドで古巣の稚内市から発表者をお迎えしております。研究所のプロジェクト・リーダーのみなさんによる活動報告や、学生たちが参加するポスターセッションと自由討論もありますので、どうか最後までよろしくお願ひ申し上げます。



図1. 「新しい旅のエチケット」  
観光施設・ショッピング編



図2. 「新しい旅のエチケット」  
旅の飲食編



図3. 「新しい旅のエチケット」  
宿泊編



図4. 「新しい旅のエチケット」  
交通編



図5 「新しい旅のエチケット」  
全版 (日英語版)



図6. 「新しい旅のエチケット」  
全版 (日英語版)

参考文献

日本政府観光局 (2021) 「SDGs への貢献と持続可能な観光 (ステナブル・ツーリズム) の推進に係る取組方針」  
[https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press\\_releases/20210622.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/20210622.pdf)  
 旅行連絡会 (2021) 「旅程場面毎『新しい旅のエチケット』」(協力: 国土交通省・観光庁)  
[https://www.jata-net.or.jp/virus/211122\\_tabietiquette.html](https://www.jata-net.or.jp/virus/211122_tabietiquette.html)